

夕

鶴

木下順二作品集 I

夕

鶴

木下順二作品集Ⅰ

未来社刊

夕 鶴／木下順二作品集Ⅰ

一九六二年一月一〇日第一刷発行
一九七八年十二月二〇日第二二刷発行

定価一五〇〇円

◎著者／木下順二

発行者／西谷能雄

発行所／株式会社未来社

東京都文京区小石川三の七

電話(八四)五五二一〇代表

振替東京七―八七三八五番

暁印刷／今泉誠文社

検印廃止

落丁・乱丁には責任を負います

木下順二作品集 I

夕

鶴

目

次

彦市ばなし 5

狐山伏 31

——狂言の形式による

夕鶴 63

赤い陣羽織 99

——A farce

三角帽子 141

——アラルコンの物語から

解説対談

*

*

*

解題

内田義彦
木下順二

菅井幸雄

277

223

彦
市
ば
な
し

彦 市（嘘つきの名人）
天狗の子
殿 様

川のふち。夕ぐれ時。一本の大きな楠の木。
楠の木の下あたりで「えいッ、えいッ、やッ」と剣術の掛け声が聞えている。
釣り支度の彦市が出て来る。

彦市

（立ち止って独白）ははあ、声はすれども姿は見えずか。こら天狗の息子どんに違いなか。隠れ蓑ば着て剣術の稽古ばしよなはるところばい。ふんふん、一ちょ俺が得意の嘘でだまして、隠れ蓑ば取り上げてくりゆう。（突然釣り竿を眼に当てて騒ぎ出す）わあ、面白え面白え。こら何でン見ゆる。こら面白え。どぎゃん遠か所でン見ゆるばい。ほう、薩摩にや今火事がありよる。ほう、江戸にや相撲がありよるばい。こら面白か。（いいながらちよいちよ楠の木の下をうかがっている）

掛け声が止む。

彦市

（暫く様子を見ているが、また騒ぎ出す）ほう、相撲々々。わあ、東が勝った。西が負

けた。東勝った西負けた。こら面白え。

楠の木の下から声がする。

彦市 彦市どん、そら何な？

彦市 (びっくりしてみせて) へ？ だ、誰だろか？ 声ばかりして姿は見えんが……

彦市 わたいたい。竜峰山たつみねやまの天狗の息子たい。ちっと見せてはいよ。

彦市 ははあ、天狗どんの息子どんな？ そらアそらア……。こらア天竺渡りの千里見通しの遠眼鏡たい。ばってん貴方あなたは全体何処どこエおシなはつとかな？

彦市 ここたい。

彦市 へ？ どこだろか？

彦市 (いらいらして) ここたい。今隠れ蓑かさば着きとるもんだけん見えんとたい。

彦市 ははあ、隠れ蓑。そらまた珍めづらしかもんば着きとシなはるな。うん、そらア貸してンよかばってん、姿すがたは見せんなら貸かされんたい。

天狗の子が姿を現わす。

天狗の子 さあ、貸してはいよ。

彦市 ありや、其^そ処^へおったつかな？ うん、そらア、貸してシよかばってんなあ……ほ、

こんだ西が勝ったばい。わあ、西勝った東負けた。

天狗の子 貸してはいよ、なあ、貸してエ。

彦市 うん。ばってん、この遠眼鏡は俺が大事大切の宝もんだけんなあ。

天狗の子 よかたい、ちつとなら。なあ。なあ。なあ。

彦市 あっはっは、そぎゃん見たかかな？ なら……その隠れ蓑と引き替えて貸そうか？

天狗の子 え？ 隠れ蓑？……そらアいかん。こら大切なもんだけん誰にも貸しぢゃならん

ておとっちゃんにいわれとるもん。

彦市 わあ、こんだまた東が勝ったばい。わあ面白え。こゝら面白え。さあ、こんだどつ

ちが勝つかな。

天狗の子 見せてエ。彦市どん見せてエ。

彦市 隠れ蓑は貸さじや。

天狗の子 うん……すんなら、ちつとの間ばい。

彦市 すんなら貸そうたい。(釣り竿と隠れ蓑を取り替える)

天狗の子 ちつとの間ばい。大切に持つとてはいよ。……こらア……はア、こら何^なも見えん。

……こらどぎゃんして見ッとな？……はあ、なんも見えんたい。……彦市どん……彦市ど

ん……こらどぎゃんして……なあ彦市どん……あれ？ 彦市どん、何^ど処^へ行^いったつな？

彦市どん……はれ、おらん。どぎゃんしゅうかい？ 彦市どん……彦市どォん。こらどぎ

ヤんしゅうかい？ 彦市どおん。彦市どおん。

彦市の声 天狗どん、そら貴方あなたが馴なれんけんたい。馴なれれば何でンよう見ゆる。

天狗の子 あれ、貴方あなたは隠れ蓑あはば着てしもたつな？

彦市の声 なあ、隠れ蓑も大切だらばってん、この遠眼鏡も俺が大事大切の宝もんだけん、どうだろか？ 一ちょ取り替えちゆう事ことにしゅうじやなかな？

天狗の子 (びっくりして) そ、そらァいかん、そォらいかん彦市どん。おとっちゃんに怒らるる。

彦市の声 まあよかたい。その遠眼鏡と引き替えなら、おとっちゃんも怒りはしなはらん。

天狗の子 (泣き声で) いかんいかん、そらいかん。こら何も見えやせん。こらァ唯の釣り竿たい。なあ、返して、なあ。

彦市の声 ……

天狗の子 なあ、返して。返せ。返さんか？ 返さんかちゅうに。……出てこんな。……よ

うし、おとっちゃんにいつくるぞ。……うふん、よか。よか。いつけてやるけんよか。見とれ。いんま見とれ…… (泣きながら去る)

彦市 (姿を現わして) あっはっは。天狗の癖して弱虫が、泣きべそかいて行きよった。あっはっは。さあよか物ものば手に入れたぞ。こら一ちょこの隠れ蓑で、あしたからあっちゃこっちゃ、好きな事ことばして歩こうばい。酒だろうと饅頭まんとうだろうと、姿が見えんなら只で飲み放界の食い放界。こらありがてァ。俺ァやつぱり、評判にたがわん嘘うそつきの大名人ばい。

あっぱっぱ。……ほう、竿も捨てて行きよったな。すんなら、さあて、今夜は一ちよ、ゆつくりと釣ろうかい。(腰を下して釣り始める)

間――

彦市 (ふと気がついて) ところで、と……今、おとっちゃんにいいつくるていいよったね。ふうん。いいつけられたら、こら困るぞ。親天狗が仕返しにきたら――あわわ、天狗どんば怒らすとハッ裂きにさるちゅうけんなあ。……こら、どぎゃんしたもんだるか? ……隠れ蓑は着てしまいか? ……ばってん、いつくる事やら分らんとは、起きてから寝るまで着て歩いとるわけにも行かん。……ふわあ、こらちとおとろしゅうなってきたぞ。……ふうん、こら、一ちよ、よう思案は廻らさにゃいかんばい。ううん。(考え込む)

二

同じ頃。黒幕の前。

天狗の面を手にした殿様が坐っている。

殿様

(独白) きょうお城の大掃除ばしたら、宝物庫からこぎゃん物もんぶつが出てきましたちゅうて、うちの家老がこの面めんば持ってきた。あの宝物庫にや、御先祖代々の重宝がはいっとつとばってん、こぎゃん面のある事ことア、おら、きょうのきょう迄知らんだった。こらアなかなかよう出来できとるばい。ふふうん、かぶり工合もこらなかなか上等。……(思いついて) はあ、ふんふん、こらよか事ことば思いついた。……いや、俺おれア、下々しもしもの様子ば探る為に、毎晩そろつと城しろば出て、あつちヤこつちヤ歩いて廻る事ことにしとるが、お蔭で近頃きんぐらア、大ぶん名君の名が高うなった。ばってん、ひょつとして、俺が殿さんちゆう事ことが見破られては一大事だけん、姿すがたば変ゆる事ことばかりや、これが毎晩苦勞くるわうの種になつとる。そこで、今ひょつと思いついたが、うん、今夜は一ちよ、この面めんばかぶつて出かけてみゆうかい。うん、こらア我ながら名案名案。どら、すんならそろそろ出かくるかな。(面をかぶつて去る)

三

少し後。川のふち。

彦市がさっきのまま糸を垂れている。

彦市

さっきから考えとるが、よか思案も浮ばん。……また今夜はどういうもんだろかい、

いつもは十四二十匹すくぐ釣るツとが、今までかかって一匹も釣れん。……やっぱ、こら天狗どんの祟りかも知れんぞ。……うん、こら、も、今夜ははよ戻ろうばい。ぼやっとしてって大天狗どんにつかまりでもしたら……ふわあ、もし天狗どんがやってきたら……わっ、か、勘弁してはいよ。

面をかぶった殿様が楠の木の蔭から出て来る。

彦市 こ、こらどうも悪うござるました。済ンまつせん済ンまつせん。いえ、ほ、ほ、ほ

んの二三日貸してはいよちゅううて坊ちゃんにお願いしただけだったですたい。はい、もうお返ししますけん、どうぞ勘弁してはいよ。

殿様 おいおい彦市、どぎゃんしたつか、何は騒ぎよツとか。

彦市 ほんのもう出来心でござるます。はい。どうぞもう御勘弁を。

殿様 おいおい彦市、誰て思うとツとかい？ 俺ばい。

彦市 は、はい。知つとるます。いえ存じ上げとるます。竜峰山の大天狗どん、どうぞハッ裂きだけはこらえてはいよ。

殿様 あっはっは、そうそう、おら忘れとった。今夜は天狗の面ばかぶつとツとだったばい。(面をとって) おい、彦市。

彦市 あら、こら、殿さんでござるましたか。

殿様 そうたい。殿さんたい。——（傍白）あらしもた、うっかり身分ば明かしてしもた。……ま、よかたい。

彦市 ああうったまげた。……そうですか。……殿さんでござるましたか。……ああよかった。（がっくりする。——傍白）人ばたまがらせて喜うどシなはる。ほんに人迷惑な殿さんばい。またこの殿さんはどういうもんだろかい、夜になるときつと出て歩きなはるちゅうが、よっぽど夜遊びが好きでばしあつとだろばい。

殿様 おい彦市、ぬしゃ何ばしよったつかい。

彦市 いえ、ちよつと魚うがば釣りよりしました。——（傍白）何ばしよろうといらん世話たい。おらこぎゃんたまげたこたなかつたぞ。

殿様 どら、魚は釣れたかい。——（びくをのぞき込みながら傍白）下々の事ことア何でシ見とくに限る。

彦市 いえ、一ちょん釣れまつせん。——（傍白）ええうるさかね。人のびくばのぞき込うだりして、はよあっちゃに行きなはらんかね。

殿様 そらまた気の毒ごうな事。どら、俺が見とるけん、一ちょ釣つてみせれ。（しゃがみ込む）彦市（傍白）わあ、こらかなわん。——（正白）いえ、わたくしや魚釣りは下手でござるますけん。

殿様 よかよか。下手でシよかけん釣つてみせれ。

彦市 いえ、わたくしや、その、はい——（傍白）うん、かっぱば釣りよるていえば、た